

令和4年度第1回我孫子市男女共同参画審議会 会議概要

1. 会議の名称 令和4年度第1回我孫子市男女共同参画審議会
2. 開催日時 令和4年6月3日（金）15:00～17:00
3. 開催場所 我孫子市役所議会棟A・B会議室
4. 出席者（委員）皆川満寿美、齋藤美重子、柳川眞佐子、横田光夫、山本聖、相馬英里、池田尚史、片岡綾、向美乃里、中野きよみ、以上10名
（事務局）岡田秘書広報課長、藤代男女共同参画室長、大島
5. 欠席者 本村敏昭、中野直美、以上2名
6. 傍聴人 なし
7. 議題（1）我孫子市の男女共同参画推進について
（2）男女共同参画推進事業の経過報告と今後の予定について

8. 会議の概要

事務局から、会議成立要件の確認と本日傍聴希望者がいないことについて報告し、開催を宣言した。

■議題1 我孫子市の男女共同参画推進について

（皆川会長）今月末で、この審議会の委員の任期が終了する。2年間の任期中にお会いできたのは昨年一度、そして今回で二度目、お互いに顔を見ながら話しができなかったのは残念だった。他は書面開催となったけれども、計画の進捗状況についての意見をいただくことができ、充実したものになったと思う。各委員に2年間の感想とともに市の男女共同参画の計画、男女共同参画の推進について意見をいただきたい。

（池田委員）我孫子市商工会からの推薦でメンバーになり10年となる。当初は男女共同参画の言葉すらわからないまま参加し、参加するたびにいろいろ勉強になっている。日ごろ自営の仕事をしていると、自営業は女性がしっかりしていないと商売が成り立たないと感じる一方で、男性の方が社長とか店主が多いと気づくようになった。また、男女共同参画はこの3、4年のうちに、SDGsの視点が加わってきて、取り組みにも新たな動きがあったと実感した。

（片岡委員）市の男女共同参画事業にはあびこ市民活動ステーションのスタッフとして、オンライン講座と情報誌づくりにこの2年間協力してきた。昨年度は今まで男女共同参画講座への参加が少なかった層、30～40代の男性をターゲットに「doからbeの肩書へ～仕事の肩書きだけではない自分に出会う」をテーマとして、まさにその世代を集めることができた。講座を通して、男性は女性より弱音を吐ける場所がないのではと感じた。男性たちにも自分の生活の中で感じるモヤモヤが実はジェンダーの問題につながっていると気づいてもらえたらうれしい。また、小学校低学年の子どもがいるが、最近とても気になるのが子どもたちに関わる立場の大人の言葉として、「男の子なんだから、外で元気に遊びなさい」とか、「男の子なんだけどもいつも読書してるんですよ」という発言を耳にすること。そのたびに、モヤモヤしたまま聞き流している。子どもたちには「男の子が本を読むのはおかしい」という見方をしないでほしい。さらに、通っている自動車教習所でも、先生から「女性だから機械が苦手だよ」と言われると自分が苦手であってもそれは「女性だから」ではないとモヤモヤする。親を含め、子どもたちに関わる立場の人が自身の発言が偏った考えによるものではないか、ということを考えたりする機会があるとよいのではないか。また子どもが小学校一年生のときに学校で性教育の授業があり、自分のころはなかったことで、とてもよいことだと思った。

(皆川会長) 性教育の話は、文部科学省が推進する「生命(いのち)の安全教育」のことだと思う。2年ぐらい前から、子どもたちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、全国の学校においてプライベートゾーンのことなどを教えている。

(向委員) 公募の市民として初めて参加し、会議資料を見たときは膨大なページ数に当惑したが、一つ一つのことに対して、委員のみんなが考えて進めてきたことがわかってきた。この2年間、書面開催が多く直接発言を聞いたり、自ら発言したりする機会がなく波に乗れず終わってしまった感じがするので、機会があればまた参加したい。大学も社会人になってからの職場も東京で、ずっと地元の人と交流する機会がなかったが、市内のスポーツジムに通い始め、比較的いろんな世代の地元の人と知り合いになり、みんなとてもパワフルでいろんなことに挑戦していることを知った。そんな我孫子市民の力を結集すればまちの活性化につながると思う。自分も何かきっかけを見つけたいと思い、この委員に応募した。

(中野委員) 市民の目線で何か発言できればというスタンスで参加してきた。昨年、父が倒れ病院と自宅のリハビリを繰り返す状況になり、初めて医療現場と介護現場の人々と接することになった。リハビリ病院は理学療法士、作業療法士が実にたくさんいて、皆若くて男女半々という印象。もちろん看護師の人も働いているけど、こちらは女性がほとんど。そこで調べてみたら理学療法士は2018年に男性6割女性4割だったので、多分今はもっと差がないのではと思った。家族としては医療も必要、リハビリについて理学療法士の指導も必要。さらに日常生活の食事とか排泄に寄り添うヘルパーも必要だが、ケア労働にある壁も感じた。介護はエンドレスで大変な仕事であるのに、大変過酷な仕事。今後は介護労働の男女共同参画とか、この分野での行政の取り組みも視野に入れて考えていきたいと思う。

(皆川会長) 介護労働者の処遇の問題は何年も前から言われていて、訴訟なども起こっている。福祉と医療はやはり女性比率が高く管理職も比較的女性が多い分野。全体の賃金が抑えられており、国全体のこととしてやっていけないといけない。男女によるニーズの違いもあり、さまざまな課題がある。

(相馬委員) 情報としてはメディア等で得ていても、実体験に基づかない話になるが、日頃ふと感じるムカッとする、疑問に思っていたことが、この審議会に参加して自分だけの怒りや疑問ではないと知ることができた。最近、男女共同参画というと、前提として男女で分けて考えるわけだが、これについて「実はちょっと嫌だな」と思っている人がいるのではないかと考えている。女性活躍と言われても、もうこれ以上頑張れないと感じている女性とか、男性だからと頑張りすぎている人とか、男性・女性と括られて苦しい人とか、いろいろと含めて、一歩進めて考えていきたい。

(山本委員) 今回初参加で、これまで関心のなかった男女共同参画について知ることができた。福祉関係の仕事をしており、日頃から多くの女性が働いているところを見ているわけだが、業態によっては女性が少ない職場が結構あると知り、そういうところでも平等に参画できるようになればと思う。またジェンダーのニュースなどを見ると、自分から関心を持って調べるようになった。ジェンダー教育は学校でも結構やっているようで、そういうのが全国的に浸透していくとよいと思う。

(横田委員) 社会福祉協議会から参加して3期目になり、仕事に関することでもたとえば民生委員は男女半々になっているとか、最近のことあるごとに男性の数、女性の数を気に掛けるようになった。先日、市内の市民活動団体の集まりに参加したが、男性も女性も頑張っている様子が見受けられ時代の流れを感じた。10年ぐらい前には定年退職した男性が大量にボランティア活動に初参加するということがあった。その前はボランティアというと女性しかいなかった時代もあった。さきほどから、福祉業界は女性が多いことが話に出ているが、私の職場もフロア内で15人中女性が10人でありやはり女性が多いと、改めて感じながら聞いていた。

(柳川委員) 私の所属する「あびこ女性会議」は、千葉県に県立女性センターが作られるにあたって、県内の女性たちの意見を取り入れたものとするように組織されたもので、我孫子だけでなく、千葉、船

橋、流山、松戸、柏など、県内各地で組織され活動が続いている。26年前に引っ越してきて、「あびこ女性会議」に加わったが、当時、我孫子は男女共同参画が大変進んでいたと思う。市議会も女性議員が3割以上いて、今はずいぶん減ってしまった。それ以来、市の男女共同参画に関して、20年も関わってきたが、男女共同参画条例の制定に関わらせてもらったことが印象深い。条例の中に「男女共同参画推進員」について記載したことは大変よかったと思っている。どこの自治体にも男女共同参画の部署はあるが、職員は3~5年で異動があるのが通例。我孫子では専業の推進員がいて事業を継続している。また男女共同参画プラン推進本部会議という、市長を本部長、副市長と教育長を副本部長とする庁内組織についても明記した。条例を作ったときは、国中の男女共同参画の機運が盛り上がっているときだったので、我孫子市だけでなく、他市の人たちも元気があった。男女平等が進んできたからかどうかはわからないが、だんだん、男女共同参画に関わる人が少なくなってきた印象がある。毎日の暮らしに直結することなので、これからもいろいろな人に加わってほしいと願っている。

(皆川会長) 個人的には、中央学院大学に職を得て2018年から当審議会会長をしているが、この2年間は学校もリモートになり、我孫子に来る機会が極めて少なくなってしまうと感じている。我孫子市では、男女共同参画プラン推進本部会議という庁内組織が機能していることは大変重要である。国も地方自治体も男女共同参画計画は作るときは一生懸命やるが、その後、どれぐらい進捗しているかをモニタリングしていくことが重要で、審議会の重要なミッションなのだが、これがなかなか難しい。我孫子市では、各課事業の進捗状況について個別の評価シートで管理しているが、各課の担当者が自分たちの仕事に男女共同参画が具体的に関わっていることを認識できるよう工夫している。

(齋藤委員) 2年間参加できる機会が少なく、またコロナで対面式会議も少なかったのが残念だった。審議会は参加して楽しいと感じられるものであってほしいが、参加して楽しい会議というのは、話のやりとりを行うことで、話が深まっていく過程があるのだと思う。書面だと難しい。私自身はこの2年間で我孫子市のことがようやくわかってきた感じである。広報紙も充実していると思う。我孫子市の計画の進行状況報告の評価シートについて、自分も学会で発表した。指標だけではないところがいいのではないかと思っている。各事業があのような個別シートになっていけばわかりやすい。男女共同参画の視点についてのチェック項目はある意味でケアという言葉でまとめられると思う。人に対するケアというと、介護のイメージがあるかもしれないけど、人への気遣いや配慮などはすべてケアという言葉に集約できる。SDGsについての視点も加えられているが、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」がまさにケアのことだと思う。私はヤングケアラーのことについて取り組んでいるが、ケアラズサロンなども我孫子で開催しているのでぜひ参加していただければと思う。これからの男女共同参画としては、少数派ながら世界的に影響力、発信力が強いZ世代、また、男性が働かせられ過ぎる社会構造的な問題、これらを踏まえて、男性を置き去りにしないとか、Z世代に向けての取り組みとか、そういうところに力を入れていったらどうかと思っている。

(皆川会長) 評価シートについて、計画の進行状況を測るためには、適切な成果目標を選ばなくてはならないが、その達成を目指すだけではなく、そのために一歩前で何でやるのかという因果関係をちゃんと見ていくことが極めて大事。チェック項目は、そのために何を気にしなければいけないのかが書かれているというふうに思える。それを意識してもらい、それを持って各事業の担当職員とやりとりすることが重要。計画を作るときに、各事業に「男女共同参画マーク」を付けてもらった経緯がある。SDGsについては、環境のことくらいにしか思われていないようだけれども、「ゴール5」の「ジェンダー平等と女性と女性のエンパワーメント」こそ、あらゆるゴールに欠かせないこと。SDGsの中で、ジェンダー平等の実現は全体を貫通するものであり、SDGs文書の本文にも明記され、さらに独立したゴールともなっているということを知ってほしい。

(片岡委員) 今 40 代半ばの私は、父が働き母は家事育児の全般を担うのを見てきたので、どこかで親のようにしなくてはいけないみたいな、意識的な囚われがある。育った環境に感謝はしつつも、令和の時代においては必ずしも同じようにする必要はないと考え、家事育児についても男女の区別なく、得意な方が担う姿を子どもにも見せたいと努力している。今の大学生は自分と違って、親たちが普通に家事育児を分担しているのを見て育っているのもっと自由にいろいろできるのではないかと思う。

(齋藤委員) 「広報あびこ」に 6 月 1 日号に引用されているクラレの調査、未就学児の「大人になったらなりたい職業ランキング」をみると、男の子と女の子で回答に差がある。何年もこの状況は変わっていない。本当に今男女が平等であるならば、男の子と女の子の回答が同じにならなくてはおかしい。「女の子(男の子)はこういうふうになってほしい」というと親の囚われは若い世代にもあり、今も変わっていない部分があるのではないだろうか。

■議題 2 男女共同参画推進事業の経過報告

・事務局から、まず、6 月の男女共同参画月間における事業として、広報あびこ 6 月 1 日号 1 面特集、国の男女共同参画推進本部会議作成の「ジェンダー平等×SDG s」の配布、6 月 25 日には共催講演会の実施予定であることなどを報告した。次に、5 月にオンライン開催された国立女性教育会館主催の「地域における男女共同参画リーダー研修」の基調講演に当審議会皆川会長、パネルディスカッションに当市男女共同参画室長藤代が登壇したことを報告した。両講師の研修参加者用の資料は本来参加者限定であるが、国立女性教育会館並びに基調講演講師の皆川会長の許可を得て審議会委員出席者限定で配布した。両講師からそれぞれの内容について説明があった。

・最後に事務局から、第 8 期男女共同参画審議会委員による審議会は今回が最後となり、今後は 6 月末を目途に次期委員の組織推薦、委嘱についてそれぞれ連絡する旨報告した。

閉会